

日時：2021 年 10 月 4 日（月）17:00～19:30

場所：ZOOM を用いたリモート会議

出席者：坂本慎一（主査）、河原塚透（幹事）、平栗靖浩（幹事）、會田祐、池上雅之、石渡智秋、佐久間哲哉、佐藤洋、杉江聡、辻村壮平、富来礼次、中川武彦、中澤真司、羽入敏樹（前主査）、浜田幸雄、平光厚雄、星和磨（敬称略）

欠席者：古賀貴士、富田隆太（敬称略）

提出資料：

- 資料2-0 2021年度第2回音環境運営委員会議事録（案）
- 資料2-1 環境工学本委員会（第2回）資料
- 資料2-2 音環境の数値シミュレーション・運営委員会査読結果
- 資料2-3 音環境運営委2022活動計画（案）
- 資料2-4 2021環境工学委員会設置期間
- 資料2-5 卒業論文等顕彰事業委員会委員推薦一
- 資料2-6 2022年日本建築学会大賞推薦依頼一式
- 資料2-7 2022年度大会オーガナイズドセッション
- 資料2-8 大会細分類・細々分類
- 資料2-9 大会細分類・細々分類_音関係
- 資料2-10 202203sympo案

議題：

前回議事録（2021年度第1回）を確認した。誤字修正後承認（資料 No.2-0）

p.3 羽生前主査 → 羽入前主査

1) 環境工学本委員会の報告（資料 No.2-1,2-2）

- ・ 2021年度出版物販売状況：AIJES学校施設の音環境保全基準（発行部数800、在庫443）、AIJES都市・建築空間における音声伝送性能評価基準（発行部数1000、在庫697）、AIJEASスピーチプライバシーの評価基準（発行部数500、在庫395）、集合住宅の遮音性能・遮音設計の考え方（発行部数800、在庫103）
- ・ 2022年度活動計画案・予算原案・講習会等事業企画書の提出依頼：提出期限10月20日（水）
- ・ 大会プログラム編成時不採択の件：投稿者からの指摘により不採択が取り下げられた事案があった。
- ・ 大会講演発表件数：環境工学は1,167（▲78）、全体で6,230（▲432）と若干少なかった。
- ・ 2021年度の大会研究集会資料（これからの感染症対策と環境工学 2020・2021年・COVID-19から何を学ぶべきか）を会員限定で1年後にAIJデジタルライブラリーにて無償公開。
- ・ 2022年度大会準備日程：OSの提案、梗概 細分類表の変更締切 11月19日（金）、学術講演会電子投稿の締切 4月5日（火）、大会（北海道科学大学）9月5（月）～8日（木）、オンラインメインで検討が進められている。
- ・ 2022年度開始特別研究会設置提案募集要領：設置を希望する場合は10月20日までに学術推進委員会に所定の書式による設置提案書を提出。年度予算は100万円/年が上限。新たに4件程度採用予定。
- ・ 2022年度開始（若手奨励）特別研究会設置提案募集要領：40歳以下のグループによる若手奨励特別研究委員会が設置されている。年度予算は100万円/年が上限。設置を希望する場合は10月20日までに学術推進委員会に所定の書式による設置提案書を提出。
- ・ 常置調査研究委員会予算配分方法：基礎額（前々年度会費収入の16.5%）＋貢献ポイント（①講習会・シンポジウム収支差額の15%、②直営出版物収入の1.5%、③委託出版物印税収入の7.5%）の総額が調査研究委員会の予算総額として計上。
- ・ 委員会等における女性会員の参画機会の拡大について協力をお願い。
- ・ 各支部の活動報告の概要説明。

- ・ 本委員会での審議事項：
 - 教育賞（教育業績）の推薦依頼について、環境工学からは推薦なし。来年度など該当する先生がいらっしゃれば推薦を。
 - 卒業論文等顕彰事業委員会委員、環境工学は3名中1名が改選。音環境から推薦。
 - オーガナイズドセッション、研究発表部門細分類・細々分類について検討依頼。
 - 次年度大会（北海道）研究協議会企画案、カーボンニュートラル実現に向けて、未来志向の議論
 - 2022年度環境工学委員会予算配分方針、基本部門（各運営委員会に配分される研究経費）と研究部門（刊行関係）の配分比率を9：1
 - 直営刊行物の絶版（在庫処分）についてのお伺い、刊行後10年以上が経過し在庫があるものを処分したい。環境工学からは3件あり2件がAIJESなので絶版としない。1件は資料なので絶版とする。
 - 刊行準備状況、3件審議、音環境からは「音環境の数値シミュレーションー波動音響解析の技法と応用ー [第二版]」の査読完了と刊行承認の報告を行い認められた。
 - 制定から5年を経過する建築学会環境基準（AIJES）について、3件該当、検討結果が報告された。改定に向けた検討を行うが1件、改定は行わないが2件
 - 委員の委嘱・解嘱、室内音響小委員会室内音響啓発コンテンツ企画WGで会員外の方の委嘱があった。本委員会で説明を求められるため、直接事務局に連絡される場合は、坂本主査もcc.で。
- ・ 意見集約①：大会（オンライン）の反省
 - 改善に向けた意見が求められている。
 - 学生のリアルな発表がみたい。1分間の最初の説明は不要。質問を考える意味では最初の説明は必要。1分では短いのもっと長く説明時間を取った方が良い。例えば3分くらい。他学会のように生で発表する方が良い。事前に全部のビデオを見るのが大変。セッションによっては質問が出ず、質問を引き出す工夫が必要。インターノイズのように動画を事務局が当日ながす方式もあり得る。サイトの工夫が必要。質疑に時間がとれてよかった。など
- ・ 意見集約②：コロナの時代にふさわしい予算の使途について（要望）
 - 現状の予算使途、旅費、コピー、通信費。謝金は認められていない。
 - リサーチ会社への委託費用、成果を英文化する費用、調査旅費、参考図書、測定費用、WEBコンテンツ作り、小委員会毎にZOOMのアカウント、など

2) 審議事項（資料 No.2-3～2-10）

- ・ 音環境運営委員会活動計画（案）：2023年度の活動計画を削除することで承認。
- ・ 卒業論文等顕彰事業委員会委員の推薦：第一候補-岡本先生、第二候補-大谷先生、第三候補-豊田先生
- ・ 2021年度大会若手優秀発表賞の選定：候補者26名の1割程度→3名。得点上位3名と4位に差があるので上位の3名を推薦。
- ・ 大賞推薦候補の検討：安岡先生が本年度授賞。数年後の授賞を目指し環境工学全体として戦略的に推薦を進めていくという方針のもと、早めに議論を進めていきたい。音環境運営委員会からは次の候補者を橘秀樹先生とすることに決定。他の運営委員会との連携が必要。まず功績理由書を作成し他分野の状況も鑑み話を進めていく。
- ・ 2022年度大会OS：固体音小委員会が担当に決定、床衝撃音に関する最近の話題（案）
- ・ 2022年度大会 細分類・細々分類：特に見直し、修正事項なし
- ・ AIJES刊行準備について（規準検討小委）：集合住宅のAIJES刊行準備のため、WGの設置を予定している。主査は佐久間先生、幹事は田中さん、メンバーは調整中。後日メール審議。設置申請書は早急に作成し、11月11日の環境工学本委員会での審議を目指す。
- ・ 調査研究委員会主催シンポジウム案（音響数値解析小委）：シンポジウム「建築音響測定への数値シミュレーションの活用とその可能性」、音響数値解析小委+建築音響測定法小委のコラボ、2022年3月開催で調整中、オンライン開催。 → 承認

3) 各小委員会・WGの活動報告

① 固体音小委員会

- ・ 本年度第1回を6月14日、第2回を8月25日に開催。インピーダンス予測手法の比較を引き続き行う。OSの内容を討議。次回10月13日開催予定
- ② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会
- ・ 2022年度活動計画についてメール審議中。鉄道騒音の測定・評価法に関する聴感実験用音源を作成中。都市部の複々線の音源も加えたもの。10月中旬に試聴を兼ねた小委員会を開催予定。
- ③ 建築音響測定法小委員会
- ・ 6月29日に小林理学研究所にて音響エネルギー密度に関する実験を人数制限して実施。羽入先生、星先生も参加。7月7日に第2回目の小委員会を開催。音響エネルギー密度に関する研究事例のレビューを実施。9月21日に第3回目の小委員会を開催。委員による音響エネルギー密度に関する研究事例の紹介。実験結果・数値解析結果の速報報告。シンポジウムで報告予定。次回11月17日開催予定
- ④ 室内音響小委員会
- ・ 本年度第1回を7月9日に開催。
 - ・ 啓発コンテンツWG：noteでの発信開始。
 - ・ 子どものためのWG：個人ごとに活動継続中。
 - ・ 吸音設計AIJESWG：推奨値、適用範囲などについて意見交換。
- ⑤ 音響数値解析小委員会
- ・ 本年度第1回を6月11日、第2回を9月13日にオンライン開催。
 - ・ 解析結果の実用化に関する検討：建築音響測定法小委員会と共同で6月29日に小林理学研究所にて音響エネルギー密度に関する実験を実施。3名参加。解析結果との比較を行っていく。3月にシンポジウム実施予定。
 - ・ シミュレーション活用による伝送系データベース：会議室において吸音境界状態を6種変化させ4kHz帯域まで可聴化した例の紹介。9月の建築音響研究会で発表予定。
 - ・ 書籍刊行について：音環境運営委員会による査読完了。9月25日原稿提出済み。12月の刊行を目指す。
 - ・ 次回12月後半で調整中。
- ⑥ 音環境規準検討小委員会
- ・ 7月2日に第2回、9月2日に第3回を開催。集合住宅AIJESの今後に向けた討議。WGを作って推進していく。重量衝撃源に関して、ボールとバングマシンを同列で扱う方向へ。次回11月10日開催予定
- ⑦ 企画・広報 WG
- ・ 8月31日に第2回開催。大会司会説明会とバッティングしたため、1時間の開催となった。次回10月7日開催予定。今後の活動についてフリーディスカッション予定。
- ⑧ その他
- ・ 特になし
- 4) 各他学会・研究会の予定**
- ① 日本音響学会・建築音響研究会：10/26 日本建築総合試験所、11/9 九州大学（騒音振動研究会と共催）、どちらもハイブリッド開催。その他は計画中。来年音響学会春季研究発表会：3月9日～11日、SSテーマ：遮音・吸音における新しい計測法の展望
- ② 日本音響学会・騒音振動研究会：10/11 京都で開催。その他HP参照
- 5) フリーディスカッション**
- ・ なし
- 6) 次回以降の予定**
- 第3回：2021年11月15日（月）17:00-19:00（本委員会11/11）
- 第4回：2022年3月3日（木）17:00-19:00（本委員会 3/1）

以上